

令和4年度第1回米沢市地域公共交通活性化協議会 会議録（要点筆記）

1 日 時 令和4年6月29日（水） 13：30～15：00

2 場 所 米沢市役所 庁議室

3 出席者（詳細別紙）

（委員）明間勇委員、安孫子幸一委員（代理出席 松本峻輔主事）、安部徹委員、安藤隆則委員、今村元一委員、植野みどり委員、大河原真樹委員、太田和広委員、黒須敬子委員、鈴木正幸委員、高橋喜智弥委員（代理出席 石山秀一交通課長）、田中廣太郎委員、宮嶋睦男委員（オンライン出席 代理出席 角張英恵首席運輸企画専門官）、山川良雄委員、山田記子委員

※欠席者：遠藤朋佳委員、長内真委員、河田亜依委員、小山雄司委員、佐々木紀子委員、佐藤文俊委員、高澤由美委員

（事務局）遠藤企画調整部長、佐藤地域振興課長、鈴木地域振興課長補佐、菊地地域振興主査、渡部主任

4 会議録

(1) 開会 司会：鈴木補佐

(2) 会長あいさつ 副市長

地域公共交通計画を昨年度策定し、今年は5年計画の初年度にあたる。

交通系ICカードの利用がはじまったが、評判等聞いていれば教えて欲しい。

委員のみなさんからどのようなことでも結構なので、御意見を頂戴できればと思う。

(3) 委員紹介

新任の委員を事務局から紹介し、出席した委員が順番で自己紹介を行い、その後事務局が自己紹介を行った。

(4) 会議の公開等について

事務局より説明。

本会議について原則公開とすることを確認した。

(5) 議事

規定に則り、大河原会長が議長になり、議事に入る。

① 副会長及び監事の選任について

→委員からの立候補はなく、事務局から副会長に安部徹委員、監事に太田和弘委員と佐々木紀子委員を提案したところ、異議なし。

→承認

② 令和3年度事業報告並びに収支決算について

事務局から事業報告、収支決算及び地域公共交通計画について説明。

監事から監査報告→適正に処理されていることを認める。

会 長：事業報告、決算、収支決算、地域公共交通について説明があったが何か質問等あるか

委 員：交通計画についてだが、2年計画で、地域ごとでやっていくという説明があったが、主体者は、コミセンを中心にするかそれとも地域を中心とするのか。私たち委員が組織づくりをするのか具体的にどういう方向で、この計画があるのか、説明をお願いしたい。

事 務 局：コミュニティセンターが市との窓口になっている。取組みを説明しコミュニティセンターを軸に地域の中で話をして、コミュニティセンターが組織の中心になるのかまたは別に公共交通を考える組織をつくるのかは、地域の実情もあるので話をして組織化してほしい。

他に意見等はなし。→令和3年度事業報告並びに収支決算について承認。

③ 令和4年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について

事務局から事業計画（案）及び収支予算（案）について説明。

会 長：令和4年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について質問あるか。

委 員：資料5の広域連携強化プロジェクト（重点事業3）奥羽新幹線の整備と米沢－福島間におけるトンネル整備の早期実現とあるがいつでできたものか、住民の方はトンネルを欲しがっているのか。

事 務 局：プロジェクト自体は、鉄道との接続性の向上ということで、現状の鉄道と、市街地のバスのアクセス、接続をよくする動きになっている。この早期実現のところで、また別の取り組みもしている。昨今の冬季に板谷峠で新幹線が止まり不通になった。災害による不通の解決のために、トンネル整備を実現させていこうといった動きが、県内で加速している状況である。そういった動きに、市も歩調を合わせて、新幹線利用拡大や、山形-福島間を安定的に輸送してもらいたいという目的で取組みをはじめた。内容についてのちほど詳しく説明したいと思う

会 長：ほかに質問はあるか。

委 員：資料5の利用しやすさ・わかりやすさ改善プロジェクト（重点事業4）について、運賃制度の見直し、路線バスと市民バスで異なる運賃体系の見直しということだが、ICカードのみの対応なのか。

事 務 局：運賃については現金もICカードも同一の金額と考えている。乗継割引については、乗継いだ確認をする必要があるので、ICカードでの支払い時のみの対応とするかは、今後検討する。

他に意見等はなし。→令和4年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について承認。

④ 報告

I 米沢駅の誘導サイン等の改善に係る公募型プロポーザルの実施について

事務局が資料7により説明。

会 長：公募型プロポーザルの実施についてなにか質問、意見はあるか。

委員：公募型プロポーザルということだが、素案をだしてもらい、市の方で審査するのか、市の事務局の方で審査するのか。

事務局：市のプロポーザルだと関係する部長等が審査するが、今回は協議会に関連する事業なので、会長、もしくは副会長に審査員として参画していただく予定。これから仕様書を作り審査員も検討し進める。協議会からも審査員として参画していただき、検討していきたい。

他に意見等はなし。

Ⅱ 郊外部から市街地へのアクセス見直しについて

事務局が資料 8 により説明。

会長：地域主体による公共交通の進め方ということで、1 年程度で実証運行ということだが質問、意見はあるか。

委員：市の方の予算の関係もあると思うが内容が令和 5 年度に向けてのものになっていると思う。

先ほど質問した、コミセンに対する案内は、今年中に組織作りをしようとするのか。資料には、次年度実証運行に向けて地域との協議とあるが、次年度に向かったの、組織作りを今年中にやり、来年度以降これを実行するとなると、地域によっては高齢化が進み、免除証返納の人が多くなってくる、1 年は待ってられない。現実を踏まえ前向きに検討し取り組んでいくべき。

来年度に向けてだけでは協議会での協議も前に進んでいかない。もう少し真剣に組織づくりとかそういったものをしていただければなど感じる。

事務局：資料の書き方が分かりづらいもので申し訳なかった。

実証運行までに地域の組織化、経路の検討などの期間が 1 年程度必要と思われるので、まずは、組織化及び経路検討を今年度から進めていき、来年度に実証運行していければと考えている。

実際に川西に向かう路線バスも検討していかなければならないという状況で、六郷地区の方とも打ち合わせをはじめているところ。

まずは、こういったところからどのように取り組むのか学ぶための勉強会が必要と考えており、昨年度協議会にも来ていただいた福島大学の吉田准教授と公共交通の考え方の勉強会も開催し、地域との調整を今年度からどんどん進めていきたいと考えている。

会長：ごもっともな意見を頂戴した。少しでも早く進めるべきである。

委員：先ほどの質問と重複するかもしれないが、コミセンが中心になって地域の交通の見直しを進めていくということだが、来月末コミセンの館長会があるので、その場で今日の会議の計画の説明しようかと思うが、地域での進め方については、今後内容が決まっていくのか。

事務局：今後の交通を考える取組として路線バスが走っている場所について、今

後路線をどうするかで考えていく必要がある。そういった地域の優先順位が高くなる。路線バスが廃止となるところは、すぐにでも代替となる交通手段が必要になってくるので、そういった地域の方々を先考して協議していく必要があると考えるが、路線バスがなく公共交通が一切ないような地域についても交通手段が近々の課題となっている地域はあるので、要望があれば、まずは勉強会を行い、地域の組織化から進めて行ければと思う。

会 長：委員がおっしゃったように館長会へ事務局から出向き、説明しいろいろな意見・要望を聞いて、活かしていったらどうか。

事 務 局：日程等調整する。

会 長：調整し事務局から連絡する。
他に質問、意見はあるか。

委 員：組織作りについて、地域の民生委員にも協力してもらえたらいいのではないか。移動実態アンケート調査についても民生委員に協力してもらうことで実態の把握ができるのではないか。

事 務 局：民生委員は地域の実状を把握している。ぜひ民生委員の方にも声をかけ実状の把握をしていきたい。

他に意見等はなし。

Ⅲ 奥羽新幹線の整備と米沢－福島間トンネル整備の早期実現にむけた活動について

事務局が資料9により説明。

会 長：質問、意見はあるか。

委 員：コワーキングスペースを利用する方が多いと感じた。改修後は無料で使えるようになるのか。

事 務 局：次年度整備後有料にするかまだ決まっていない。実証事業としてやっているが、利用者アンケートの中には「有料でも良いので個室のスペースが欲しい」といった要望も受けているので、アンケート調査結果も踏まえこれから決めていく。

委 員：有料での提供にした方が長く続けられるのではないかと思う。
山形新幹線の利用拡大についてだが、トンネル整備は近々の課題だと思うが、奥羽新幹線は実現するのはだいぶ先になるのではないか。逆に、現状のミニ新幹線の魅力をもっと訴えていくのはどうか。ミニ新幹線の良いところは景色が見えるところなので、米沢市で紅花プロジェクトを立ち上げているのだから、沿線に紅花畑を作り、車窓からの景色を魅力的にしていってどうか。

事 務 局：7月から紅花プロジェクトが始まりその中でも新幹線沿線に紅花畑を作り、新幹線の乗客にお見せすることも考えている。JRに協力してもらい、新幹線車内での紅花についてのアナウンスも行う予定。これから

市全体として紅花と新幹線で連携してやっていければと思う
他に意見等はなし。

Ⅳ 交通系 IC カードの活用とバスの乗り方教室について

事務局が資料 10 により説明。

会 長：質問、意見はあるか。

委 員：チラシなど配布していただいた影響もあり興味を持たれる方の問い合わせが多数あるものの利用を開始して 1 ヶ月ほど経つが、思ったほど利用実績は伸びていない。交通系 IC カードは便利なものなのでこういった乗り方教室を開催し、実際使っていただければ便利さがわかると思う。
まずは買っていただき利用していただきあとは続けて乗っていただければと思う。

乗り方教室については、昨年度市内の小学校 4 校を訪問して行い、中学校 1 校で特殊学級の生徒に営業所に来ていただき実施した。

今年度はコミセンにも回らせていただければと思う。

山形市ではコミセンにまわった。米沢市でもご依頼あればコミセンを訪問し説明したいと思う。

委 員：76 歳になる母がおり、チェリカに興味を持っているが、どこで買ったらいいかかわからない、チャージの仕方もわからないので乗り方教室は本当にありがたいので是非行って欲しい。

免許を返納した方は公共交通を使わないと足がないため免許の返納証明書も足がなく自転車を取りに行かなくてはならない。

免許返納時に交通 IC カード等の発行を代行してもらえるようなシステムがあると楽になるのではないか。

事務局：まずは身近なところで買えるよう市役所で販売しようと考えている。

今回、協議会の予算の中で IC カード購入のための特別会計を設定させていただいたので、100 枚程度市役所で準備し、免許返納の手続に来た方等へ窓口で販売していく。

会 長：今日の議題に関わらず、意見質問はあるか。

私もバスで通勤しているので交通系 IC カードの購入を検討している。
cherica を市役所で販売することは有難い。

委 員：年配の方はどうしても現金を使用しがちだが、交通系 IC カードは買い物にも使えて便利なようなので、普及できればと思う。

チャージした金額のうち、バスに乗らなかった分を換金することはできるのか。

事務局：IC カードを返還すれば手数料はかかるが換金是可以。

IC カードは商店等での買い物にも利用できるのも、公共交通機関で利用しなくても残額を利用することはできる。

⑤ 閉会

